

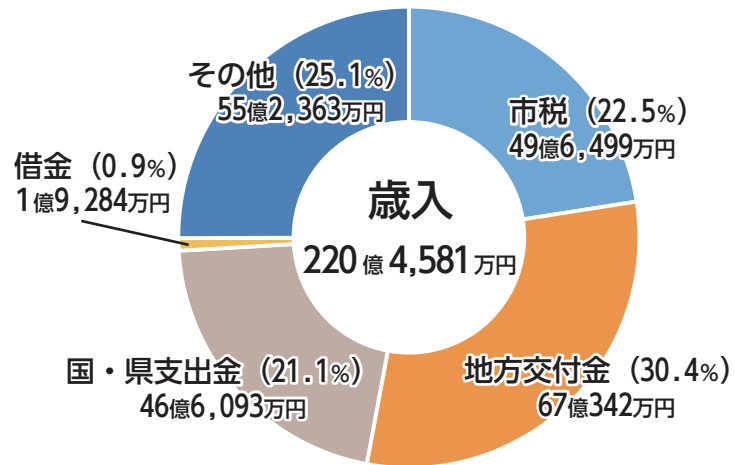
令和5年度 決算を報告します



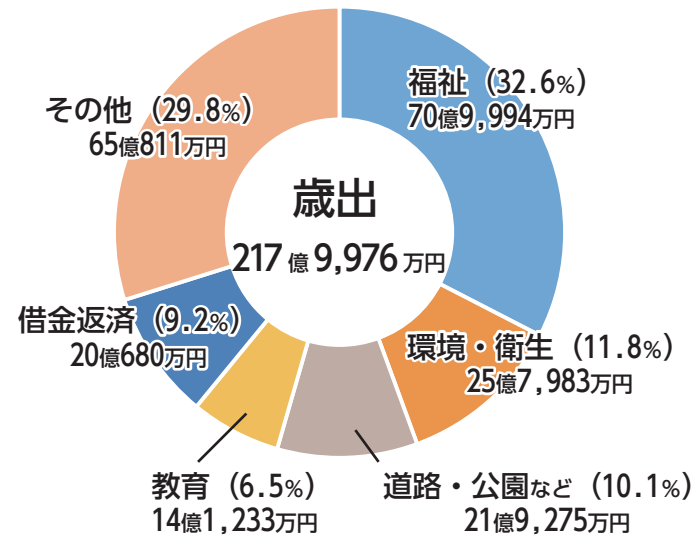
西脇市の令和5年度決算がまとまりましたので、一般会計、特別会計、企業会計の状況についてお知らせします。また、基金や市債の残高、健全化判断比率についても公表します。

▶問合せ 財政課（市役所内線3015）

一般会計歳入



一般会計歳出



収支のバランス

令和5年度一般会計では、歳入総額が220億4,581万円、歳出総額が217億9,976万円で、令和5年度へ繰り越すべき財源の3,556万円を差し引き、2億1,049万円の黒字となりました。

また、特別会計と企業会計の決算概要は次のとおりです。両会計は特定の事業を行うために、一般会計とは分けて設置されるものです。



▶会計別決算

会計	歳入	歳出	差し引き	
一般会計	220億4,581万円	217億9,976万円	2億4,605万円	
特別会計	国民健康保険	41億4,016万円	39億7,689万円	1億6,327万円
	学校給食センター	3億498万円	3億498万円	0円
	老人保健施設	4億4,393万円	4億4,393万円	0円
	公営墓地	360万円	360万円	0円
	介護保険	49億1,706万円	48億3,409万円	8,297万円
	茜が丘宅地供給事業	2,108万円	2,108万円	0円
	後期高齢者医療	6億8,839万円	6億7,037万円	1,802万円
	太陽光発電事業	6,509万円	6,509万円	0円
企業会計	水道事業	10億6,929万円	11億1,544万円	△4,615万円
	下水道事業	18億3,287万円	18億3,283万円	4万円
	病院事業	86億9,893万円	88億5,480万円	△1億5,587万円

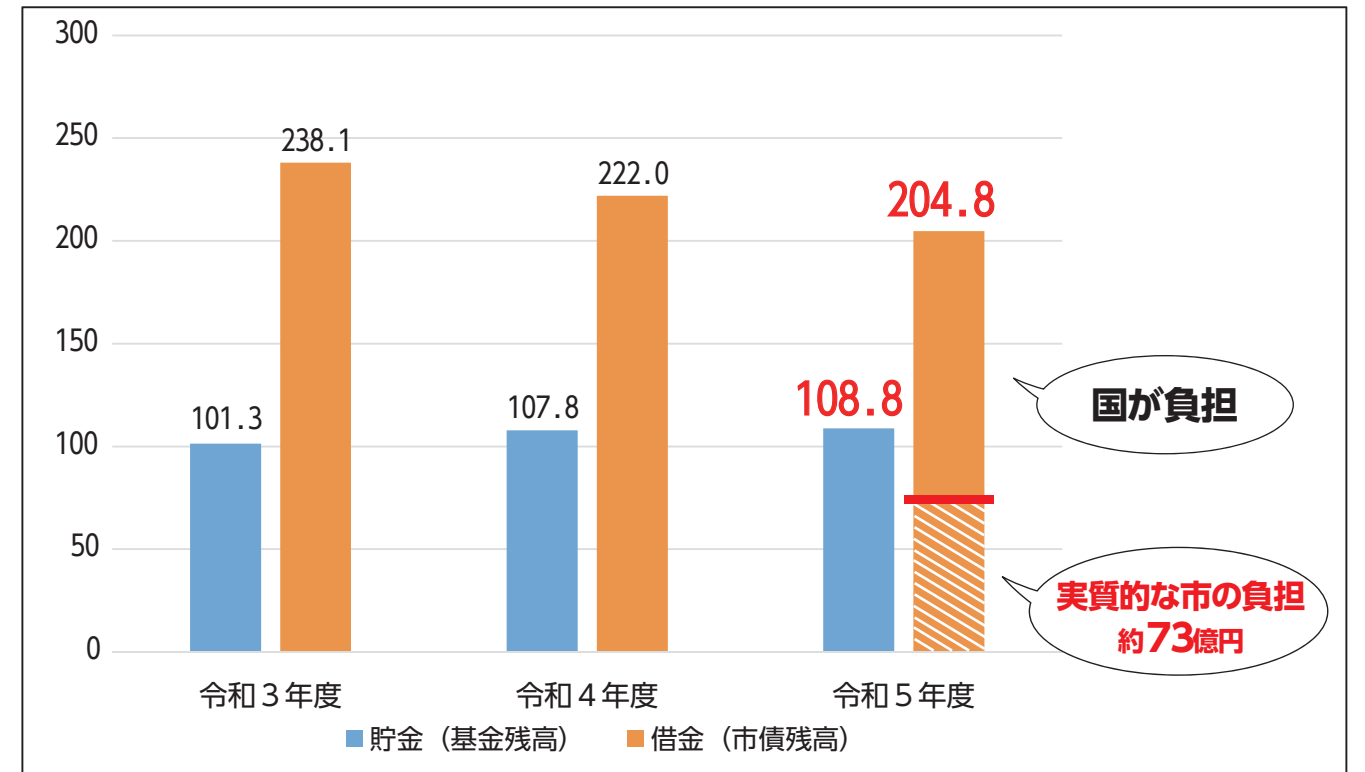
貯金と借金

令和5年度末の一般会計ベースの貯金（基金残高）は108億7,756万円となり、昨年度と比べて9,924万円増加しました。一方、借金（市債残高）は204億8,265万円となり、17億1,931万円減少しました。借金のうち、合併特例債および緊急防災・減災事業債の70%、臨時財政対策債の100%などが交付税措置されますので、**実質的な市の負担額は約73億円**となります。



なお、特別会計、企業会計を加えた市全体の貯金は120億5,605万円、借金は408億9,625万円です。

▶基金残高と市債残高（一般会計ベース／単位：億円）



財政状況

自治体の財政状況を示す「健全化判断比率」では、「健全段階」、「早期健全化段階」、「財政再生段階」の3段階に区分されます。

西脇市は令和5年度決算において、実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率のいずれの指標も国が定める基準を下回り、前年度に引き続き「健全段階」となっています＝下表。

西脇市は**健全財政を維持**しています。

▶健全化判断比率

項目	令和5年度決算	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	-	13.07%	20.00%
連結実質赤字比率	-	18.07%	30.00%
実質公債費比率	10.4%	25.00%	35.00%
将来負担比率	-	350.00%	-

比率がマイナスになる場合、「-」で表記しています。



【指標の説明】

実質赤字比率…市の会計などの赤字の程度を指標化し、財政運営の深刻度を示すもの。

連結実質赤字比率…全ての会計を合算し、市全体の赤字の程度を示すもの。

実質公債費比率…財政負担を見るために、借金の返済の大きさを指標化したもの。

将来負担比率…将来の負担を見るために、借金や今後支払いが見込まれる負債分を指標化したもの。